

縄文石器から分かること —相模原市周辺の縄文ムラから—

相模原市立博物館 長澤有史（なおし）

I 石器の視点

- ・なぜ石器をみるのか。生活の実態を考える重要な要素。
- ・土器や集落、竪穴住居からは、何を食べていたのか、どのように住まいを作っていたのか、生活の様子（日常的な様子）がよくわからない。
- ・石器の判断根拠：打製石器と磨製石器、そして使用痕石器。
旧石器時代とは器種が異なる。→石器から多様な活動を推測。

II 縄文人と石器 5つの視点から

① 住居などの遺構

- ・竪穴住居の構成要素＝掘りこまれた地面＋柱などの部材＋屋根構造（勝坂遺跡での土葺き、笹葺き）
道具：打製石斧（土堀）、磨製石斧（木材伐採）があるとかなり効率的。他にも土を上げる籠など。田名堀ノ内遺跡（相模原市）の土坑。土堀具と土を上げる籠の存在が推測される。
- ・土坑：地面を掘りこんだ穴。お墓と推測される事例もある。中期では集落の中央部、後期では集落の特定位置。

② 食糧事情

- ・植物の加工＝磨石、石皿、打製石斧。定住ならではの大きな石皿もある。
- ・根茎植物の獲得＝山芋など根茎類を収穫するために打製石斧を使用したのでは。
→打製石斧の多さから縄文農耕論（大山柏による勝坂遺跡の調査）
- ・石錘：漁労の網の錘と推測される。織物の錘としても推測される場合がある。

③ お祈り

- ・石棒（土偶と対になる要素）の存在。中期から後期への変化（集団から個人世帯へ）
- ・石器の埋納（中期：田名稻荷山遺跡、川尻石器時代遺跡（両遺跡共に相模原市）、
後期：上土棚南遺跡（綾瀬市）、畑久保西遺跡（相模原市）、宮ヶ瀬遺跡群北原(No. 9)遺跡（清川村）
破損しておらず十分使用可能なのに埋めてしまう、実用性より観念性が高い可能性がある。

④ 墓と石匙

- ・土坑墓：橋本遺跡（相模原市）の事例から かめかぶりそう 甕被葬
- ・土坑墓と石器：石匙に注目

石匙の用途：つまみ付の万能ナイフで素材の縁辺を刃として利用。日常的な刃物と手斧の用途。実用的一面と埋葬といった観念的な一面。

天神山遺跡第Ⅲ地点（小田原市）、恩名沖原遺跡（厚木市）、当麻遺跡第1地点（相模原市）→故人への思いやりはある。一方で、お供えのために作ったものはわずかかもしれない。故人に中古品をお供え＝失礼というよりは手に馴染んだものをいれたのでは。

⑤ 黒曜石の特性

- ・蛍光X線分析による産地推定→各時期の産地変化 土器情報以外にも交流の履歴が伺える。
- ・中期の産地変化 神津島産から信州産へ
- ・石鏃の拙巧の差から：①遺跡外への配布（地位の向上あるいは交換時の優位性を意図か）
②製作技術の高低≒熟練者と未熟者？

Ⅲ まとめ

- ・石器から分かることは多い。
- ・旧石器時代より器種が多く、打製、研磨、使用痕など、石器と認定できる点も多い。
→住居、土器と総合的に見ることで、縄文時代の生活を具体的に考えることが出来る。

【用語解説】（石器の用途はいずれも推測）

石材：石器に用いられた石の種類。特定の石器器種と結びつきが強いものもある。

黒曜石：石鏃 ホルンフェルス：打製石斧、石匙 蛇紋岩：磨製石斧

富士玄武岩、閃緑岩：磨石、石皿

器種：石器の形態や使用痕跡から推測されるカテゴリー

形状：石鏃、石匙、石錘など 使用痕跡：磨石、敲石、石皿など

はくりめん 剥離面：石を打ち欠いたときに見られる割れ口。

けんまこん 研磨痕：石器の面を研磨した痕跡。研磨による細かい線がみられることから線状痕とも表現する。

こうだこん 敲打痕：石器を何度も たた 敲いた痕跡。あばた状にみられ、器面が潰れた状態。

まこん 磨痕：堅果類の磨り潰しなどにより、器面が平滑になった痕跡。ツルツル、ザラザラしている。

はいこう 蛍光 X線分析：遺跡内出土の黒曜石と、現在確認されている黒曜石の産地で採取したものに、蛍光 X線を投射し、その元素構成比を比較する分析方法。元素構成比の傾向で産地が推定可能。

縄文農耕論：大山柏による相模原市勝坂遺跡の調査時に、打製石斧が多く出土したことから、主に いしくわ 石鋏として利用し、畑などで管理栽培を行っていたとする考え。大山は民俗例を援用。

まいのう 埋納：石器を土坑や土器に入れて埋めたもの。打製石斧、磨製石斧、黒曜石の石核などが埋納された。これは生活を支える石器をあの世界へ送る「物送り」であり、道具が安定的に使えるような祭祀行為であったとする考えがある。

【参考文献】

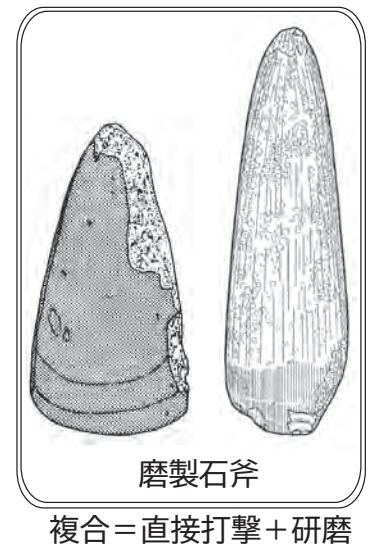
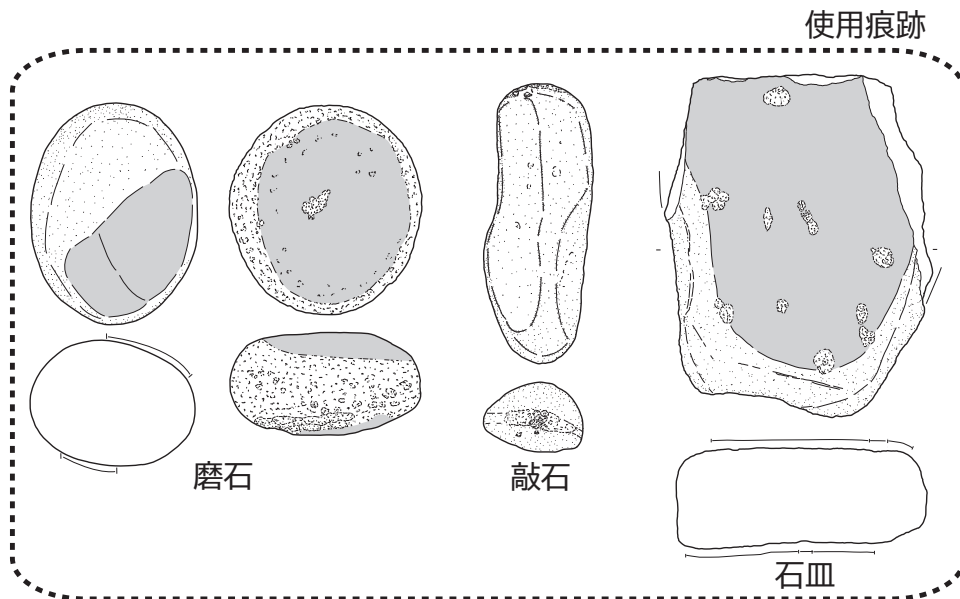
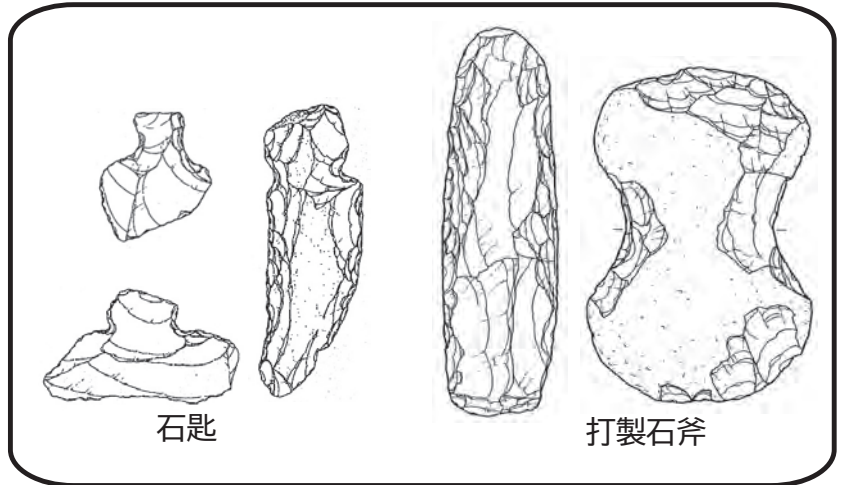
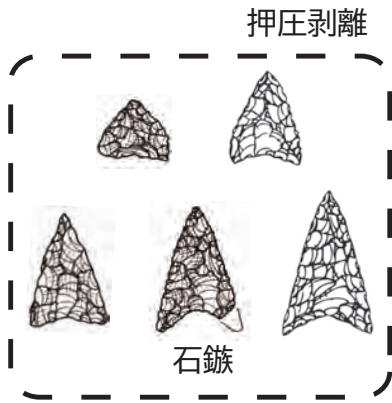
<発掘調査報告書>

- 天野賢一ほか 2002 『川尻中村遺跡』 かながわ考古学財団調査報告 133
- 市川正史ほか 1994 『宮ヶ瀬遺跡群Ⅳ 北原(No. 9) (2)遺跡 北原(No. 11)遺跡』 神奈川県埋蔵文化財センター調査報告 21
- 井辺一徳ほか 2014 『畑久保西遺跡』 かながわ考古学財団調査報告 302
- 大川康裕ほか 2014 『川尻中村遺跡 第5地点』 東京電力株式会社神奈川工事センター 大成エンジニアリング株式会社
- 大塚健一 2013 『当麻遺跡第1地点』 かながわ考古学財団調査報告 287
- 河本雅人ほか 2018 『国指定史跡勝坂遺跡総括報告書』 相模原市埋蔵文化財調査報告 54 相模原市教育委員会
- 河本雅人 2019 『国指定史跡 川尻石器時代遺跡Ⅲ』 相模原市埋蔵文化財調査報告 57 相模原市教育委員会
- 河本雅人ほか 2022 『川坂遺跡第3次調査報告』 相模原市埋蔵文化財調査報告 68 相模原市教育委員会
- 小山裕之ほか 2000 『恩名沖原遺跡発掘調査報告書』 恩名沖原遺跡調査団
相模原市教育委員会 2006 「田名堀ノ内遺跡」 『平成17年相模原市文化財年報告』 相模原市教育委員会
- 佐々木竜郎ほか 2016 『天神山遺跡第Ⅲ地点発掘調査報告書』 玉川文化財研究所
- 鈴木次郎ほか 1986 『田名稻荷山遺跡』 神奈川県埋蔵文化財センター調査報告 12
- 長岡文紀 2002 『原口遺跡Ⅲ』 かながわ考古学財団調査報告 134
- 三ツ橋和正ほか 1994 『上中丸遺跡』 相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
- 矢島國雄ほか 2008 『上土棚南遺跡 第5～7次調査の記録』 綾瀬市埋蔵文化財調査報告 6 綾瀬市教育委員会

<研究書など>

- 池谷信之 2009 『黒曜石考古学』 新泉社
- 加藤晋平ほか編 1994 『縄文文化の研究2 生業』 雄山閣
- 加藤晋平ほか編 1995 『縄文文化の研究7 道具と技術』 雄山閣
- 小杉 康ほか 2007 『ものづくり 道具製作の技術と組織』 縄文時代の考古学6 同成社
- 大工原豊 2008 『縄文石器研究序論』 六一書房
- 大工原豊ほか 2020 『縄文石器提要』 ニューサイエンス社

直接打撃



本講座で扱う主な縄文石器（縮尺不同）



押圧剥離（復元）



直接打撃（復元）



打製石斧と磨製石斧



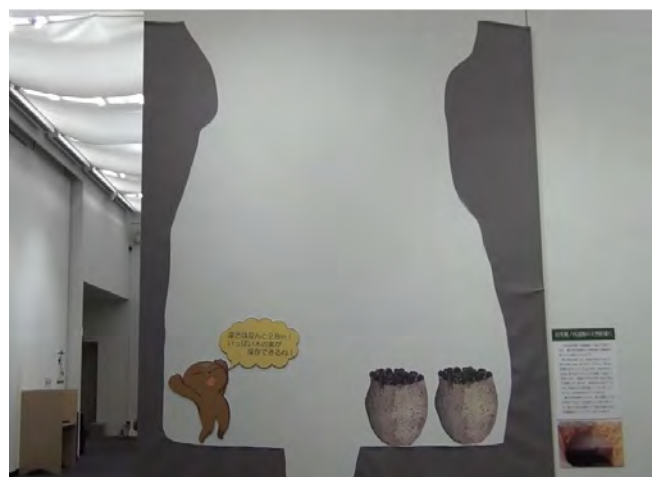
打製石斧と磨製石斧の刃先の比較



上中丸遺跡の重複する竪穴住居（相模原市 中期）



田名堀ノ内遺跡の大型土坑 深さ 2.8m、最大幅 2.2 m（相模原市 後期）



写真：相模原市立博物館所蔵



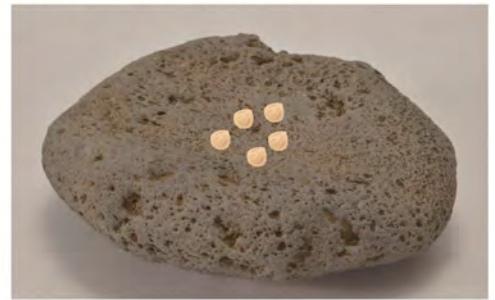
磨石



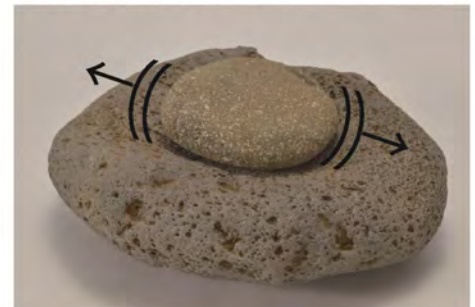
石皿

磨石、石皿の特徴と使い方

木の实を石皿において…



磨石で磨り潰します



磨石とその側面



重さ 20 kg

大形の石皿



スマートフォン約 15 cm



市内出土の石棒（上段：中期、下段：後期）

中期



田名稻荷山遺跡の埋納（相模原市）



川尻石器時代遺跡遺跡の埋納（相模原市）

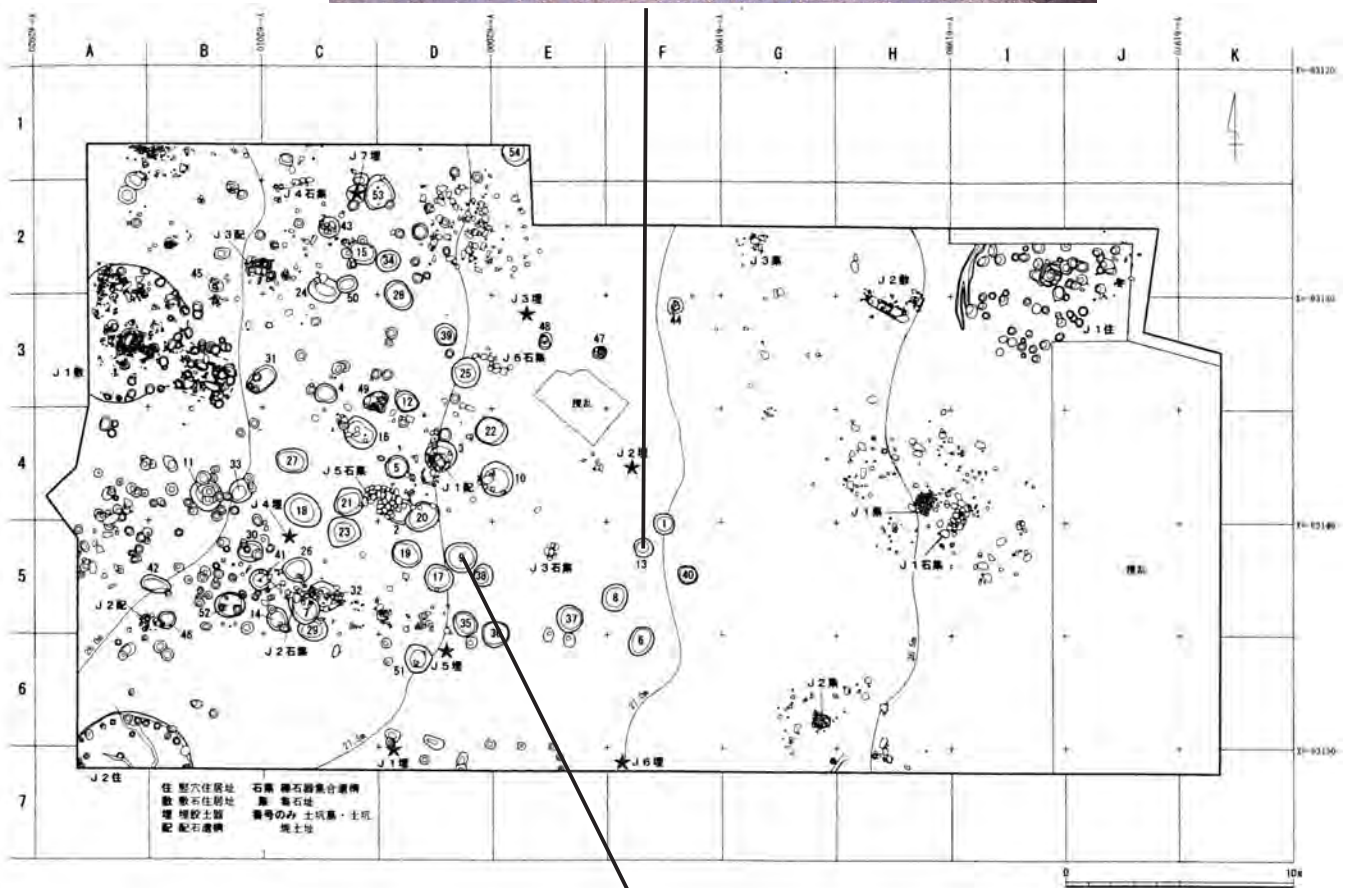
後期



宮ヶ瀬遺跡群北原（No.9）遺跡の埋納 土器の中に霧ヶ峰産の黒曜石が納められていた（清川村）



畑久保西遺跡の埋納（相模原市）



天神山遺跡第Ⅲ地点の土坑から出土した石匙（小田原市 中期）

写真：小田原市教育委員会提供



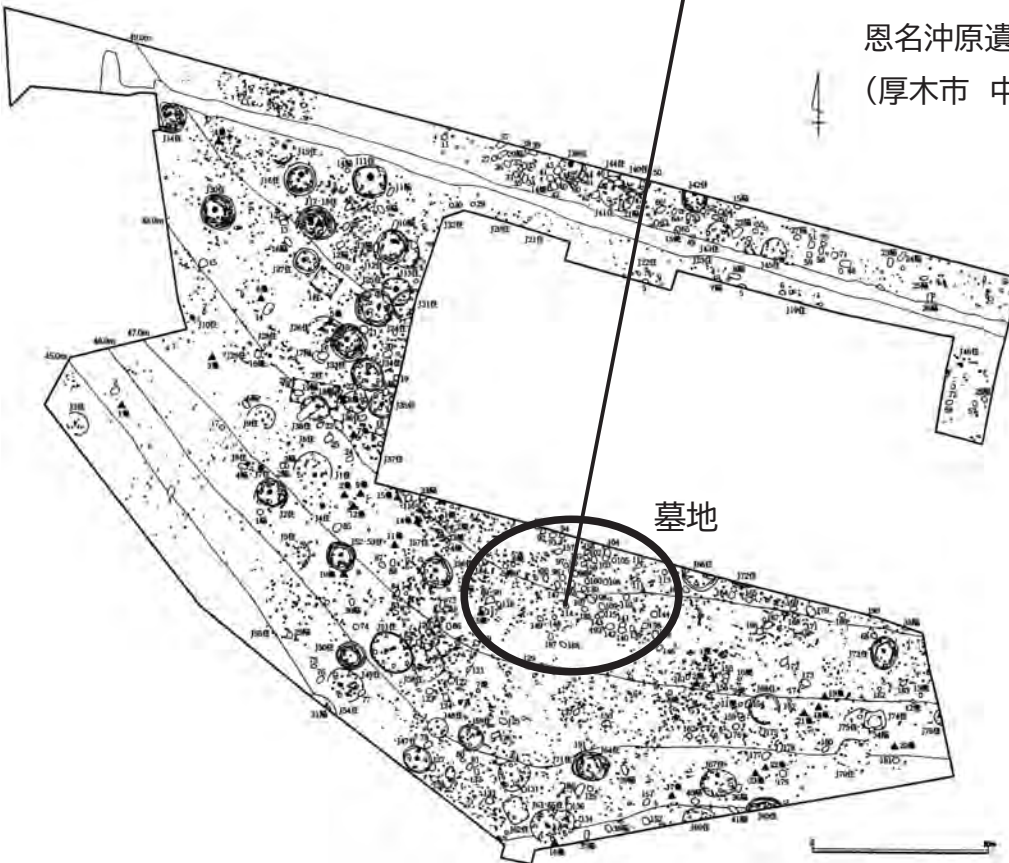
玉川文化財研究所提供



拡大

玉川文化財研究所提供

恩名沖原遺跡の土坑から出土した石匙
(厚木市 中期)



墓地



拡大

神奈川県教育委員会提供

当麻遺跡第1地点の土坑から出土した石匙 (相模原市 中期)



黒曜石原産地とその距離

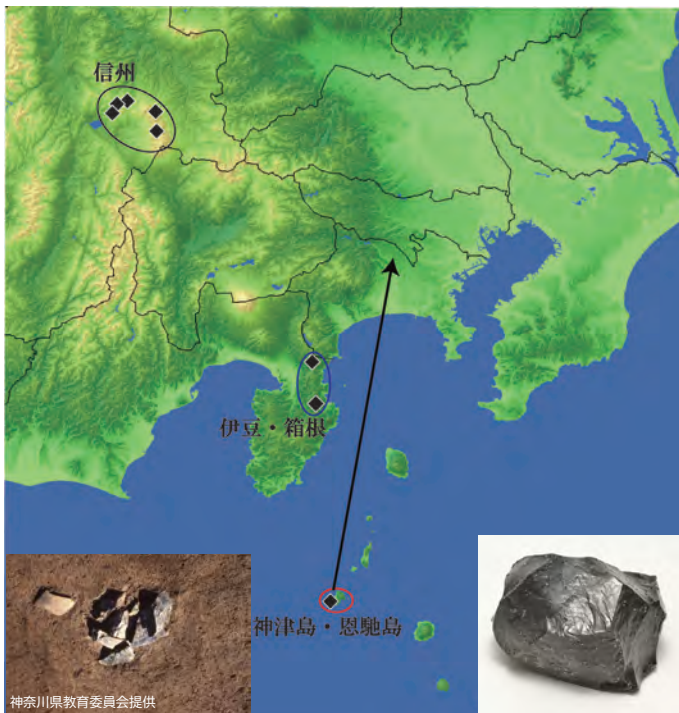


黒曜石産地のサンプルにX線を照射し、元素構成を把握。
複数の産地の元素構成パターンを構築(産地ごとにパターンが異なる)。

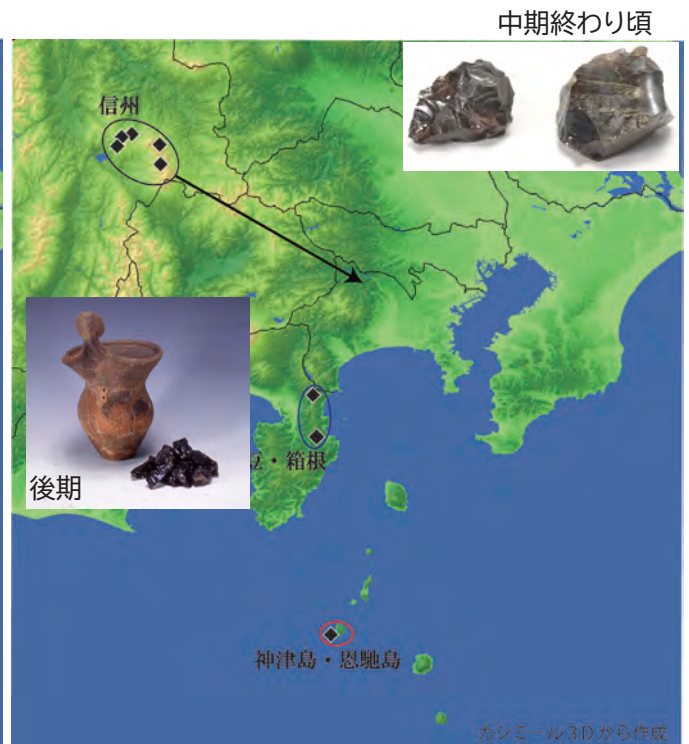


遺跡出土の黒曜石にX線を照射し、元素構成を把握。
各産地の元素構成パターンと照合し、産地推定。

黒曜石の産地推定



中期中頃(五領ヶ台式~加曾利 E2 式)

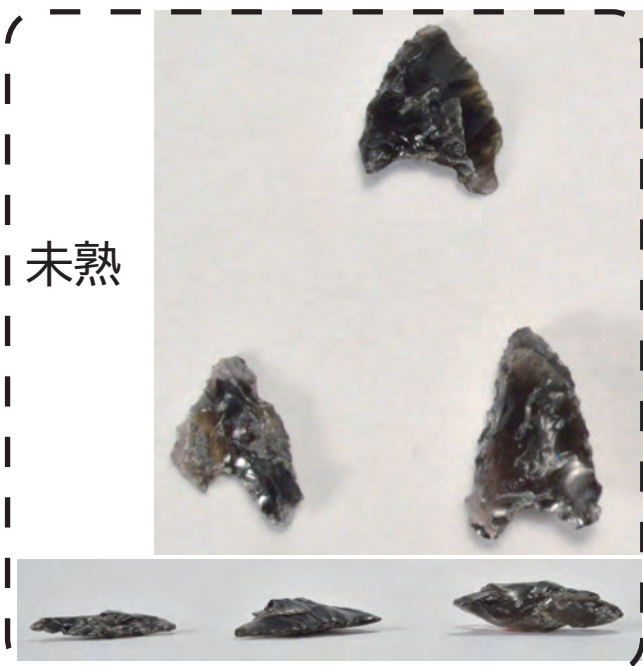


中期終わり頃(加曾利 E 3式以降~)

黒曜石の産地分析から分かること

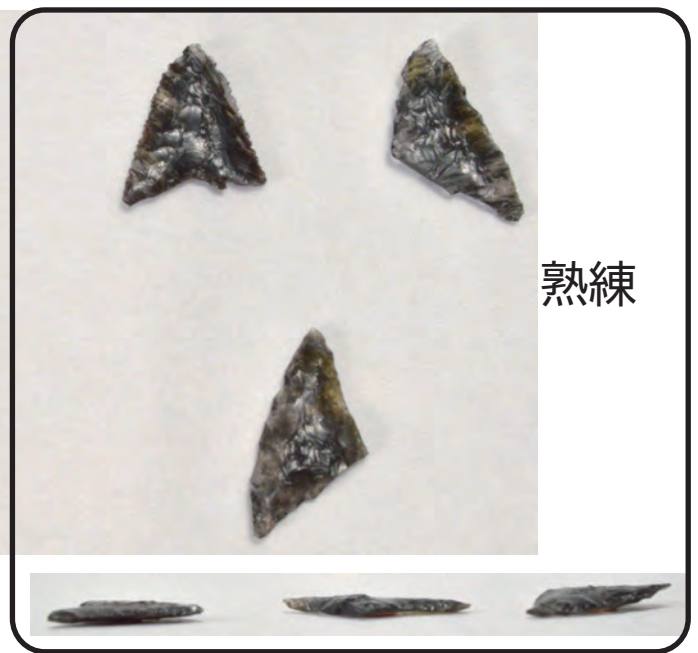
縄文時代中期の中頃：神津島産が優勢 縄文時代中期の終わり頃：信州産が優勢

➡産地の変化は、石材流通の視点からみると、つながりが弱まった地域がある可能性を示唆する。
そして土器情報以外の交流がうかがえる。



未熟

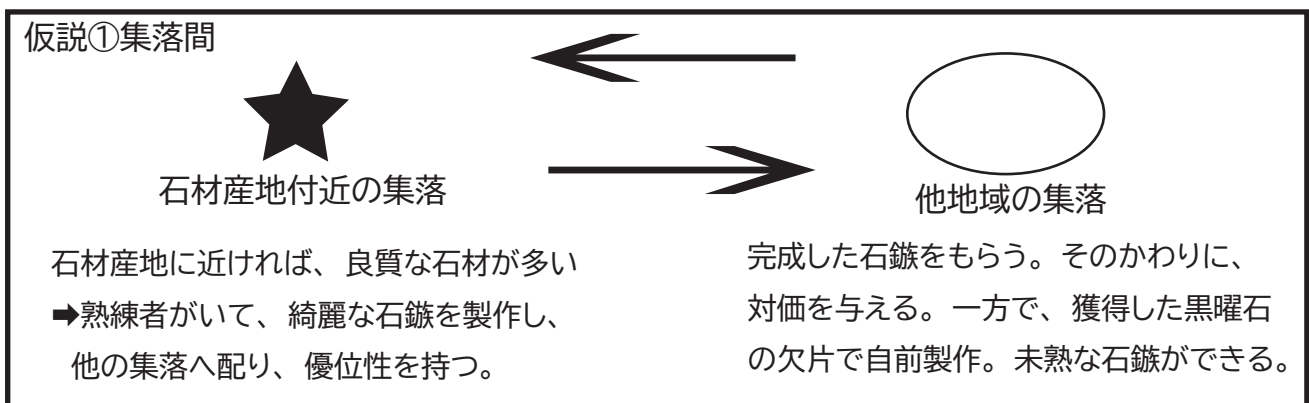
厚みが残り、肉厚 平面形がいびつ



熟練

厚みが残らず薄手 平面形が整っている。

なぜ、石鏃の技術差があるのか??



仮説②集落内

獲得した黒曜石から石鏃を製作

↓
 熟練 未熟

< 製作者の技術差 >

集落内での石鏃製作の伝承。

熟練者からの指導。



埋納からみる黒曜石の形状

(左：中期五領ヶ台式・神津島産、右：後期堀之内式・信州産)